

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2673000127		
法人名	三菱電機ライフサービス株式会社		
事業所名	長岡京ケアハートガーデン グループホーム西山の郷		
所在地	京都府長岡京市奥海印寺三反畑8-1		
自己評価作成日	平成29年3月6日	評価結果市町村受理日	平成29年8月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.wam.go.jp/wamappl/hyoka/003hyoka/hyokekka.nsf/aOpen?OpenAgent&JNO=2673000127&SVC=0001096&BJN=00&OC=01
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 きょうと福祉ネットワーク「一期一会」		
所在地	〒612-8243 京都市伏見区久我御旅町3-20		
訪問調査日	平成29年3月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・年齢を重ねるにつれお元気であった方も下肢筋力の低下から車いすでの移動になったり、咀嚼や嚥下の心配な方も増え、食事のとり方にも工夫が必要になっている。自分自身で物事を決めたり行ったりすることに時間がかかるようになってきているが、その時その時の気持ちや想いを感じ取れるようスタッフは常に目配りをし応じられるようそばにいる。・お一人お一人の個性を活かせるようにしっかりとアセスメントをし、おやつ作りをしたり、一緒に楽しめることを大切にしている。個々の楽しみを大切にしながら1日1回は皆で楽しめる時間が持てるように入居者同士の関係づくりに努めている。食事を入居者とより添って共に食べることで互いの大切さと家庭的な温かさを感じている。
・ご本人の状態を伝えながら、どのように過ごしてほしいかご家族の思いをもっと聞いてご家族と共に支えあう関係作りに努めていく。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・「西山の郷」は、三菱電機ライフサービス株式会社が地域での福祉貢献事業として平成14年に開設したグループホームです。阪急長岡天神駅から車で5分程、JR長岡京駅から車で10分程ののどかな住宅街にある3階建ての建物で、視界に西山連峰が広がる自然豊かな環境です。周辺には、きりしまつづじで有名な長岡天満宮、紅葉が美しい光明寺など、歴史ある寺社仏閣や散歩できる公園があり、四季折々の自然を楽しむに外出されています。
・地域密着型サービスの意義を踏まえ、近隣の散歩や行事を通して日頃から住民の方々と交流し、地域との関係は積み重ねを経て深まっています。
・15周年を迎え、高齢化・重度化が進むなか、管理者や職員は、入居から看取りまで一人ひとりの暮らしに誠実に向き合い支援させていただきたいと考え、入居者の想いに重点を置き利用者本位のケアに努めておられます。看取りの支援においても、医療連携を導入し、医療面・介護面の充実を図りながら、人生の先輩である入居者に関われることに感謝して、その方らしい一日を過ごしていただくために共に寄り添いながら歩む姿勢を大切にされています。
・生活のなかで入居者と職員が共に食事を楽しむ時間を大切に考え、食卓には和やかな雰囲気が見受けられます。経験豊富な職員を中心に、日々丁寧に汁をとり新鮮な食材を用いて、季節感のある食事を提供しておられます。栄養面のみならず見て食欲がわくように、食べやすいようにと工夫を凝らして調理される食事は、入居者の皆さんに好評で、体調の改善につながると同時に日々の大きな楽しみになっています。
・離職率が低く勤務年数の長い職員が多いことは、働きやすい職場作りに努めてこられた積み上げの成果であり、入居者や家族からの信頼を得ています。また、職員間のチームワークも高く、入居者や家族に諦めさせない姿勢で丁寧なチームケアを実践しておられる事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>・毎日朝礼にて理念を唱和している。その後各ユニット毎に利用者状況を伝えてもらい、お一人お一人がそれぞれの体調や想いに沿った一日が過ごせるよう話し合う時間を持っている。したいことが同じ人が集まれるよう時間や場所を相談したり、気分が落ち着かない人にはその気持ちを閉じ込めずに、全てのスタッフで見守れる体制を考えている。</p> <p>・医療面に関してもかかりつけ医を継続してもらい、地域の中で安心して生活して頂いている。</p> <p>・初詣やお花見等、地域の神社などに行き、馴染みの場所を大切にしている。お祭りなど地域の行事に参加できる機会や地域の方との交流を大切にしている。また、書道は書き初め展に出品する機会をボランティアの先生が作って下さったり生活に張りを頂いている。</p> <p>・幼稚園児の訪問や大正琴などのボランティアの訪問に地域の温かみを感じている。</p> <p>・誕生日にはお一人ずつお祝いの会をしている。お一人お一人が大切な存在であること、その人らしいプレゼントを選ぶにはその人らしさを考え、また今その人が何を求めておられるかを考える機会にもなる。生きてこられた年月、今ここにおられることに感謝して職員全員でお祝いしている。</p>	<p>・西山の郷の理念として、「個人の尊厳を大切に」、「画一性、おしつけの排除」、「地域社会との融合を図る」を掲げ、一人ひとりの想いを尊重した本人本位のケアに努めている。</p> <p>・理念は事業所が目指す方向であり、全職員が共有して意識する必要があると考え、職員間で理念の意味を検討し、常に意識できるように朝礼時に唱和している。</p> <p>・高齢化・重度化が進むなかで、本人にできること、できなくなってきたことの把握に努め、今必要な支援方法を検討して、きめ細やかな支援を実現させている。</p> <p>・職員は、押し付けないで一人ひとりにあった声掛けを心がけ、各々のペースを大切に寄添う姿勢が徹底されている。</p> <p>・西山の郷で生活して来られ、終の棲家として選ばれる方もあり、医療機関、訪問看護等と連携をとり、看取りの支援をしている。看取り期(ターミナルケア)の方には、ここで共に暮らしてきた重みを感じ感謝をしながら、一日をその方らしく過ごしていただけるように支援している。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<ul style="list-style-type: none"> ・近所の方との挨拶を大切にしている。また、散歩をしているときなど地域の方から声を掛けていただくこともあり暖かい気持ちを頂いている ・季節を味わえる作物や四季折々のお花を頂くこともある。 ・近くの小学校の夏まつりに参加している。 ・中学生には体験学習を通じて認知症を理解してもらえらる機会がもてている。 ・グループホームの夏祭りの盆踊りには、地域のボランティアが踊りに参加頂いたり、近隣の方々にお知らせをして参加を呼びかけ、交流の機会となっている。 ・地域の秋祭りにおいて子供神輿や獅子舞がホームの庭にまで入ってきてもらい、お神酒を頂いたりしてお祭り気分を味わい、皆さんの大きな喜びとなった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・開設から15周年を迎え、地域との関係は年々深まっている。近隣の方が入居されて看取りの支援をさせていただいたケースもあり、地域の方の認知症介護への理解や協力に日頃から感謝している。 ・日々の散歩や農園作業の時、地域の方と気軽に挨拶したり会話する関係で、春には竹の子、七夕には笹など、季節の農作物やお花をいただくこともあり、地域の一員であるという意識を常に持っている。 ・夏祭りなど事業所行事の際には、地域の方を誘い、地域住民やボランティアグループが参加されている。また、地域の秋祭りでは、子ども神輿や獅子舞の訪問が利用者の大きな楽しみにつながり、今後も地域に密着していきたいと考えている。 ・定期的に近隣の幼稚園・小学校・中学校との交流の機会がある。書道の際、中学生の励ましで名前が大きく書けた方があり、地域の子供達やボランティアの方との交流は、入居者も職員も大きな力をいただく大切な時間となっている。 	<p>日々の散歩や農園作業の時、地域の方と気軽に挨拶したり会話する関係は築けています。今後、近隣の方々に気軽にきていただける関係が構築される仕掛けについて、検討していかれることを期待します。</p>
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生の体験学習受入の際には利用者との交流を通じて、楽しく認知症の理解に繋がる取組みを実施している。 ・見学者の対応や相談の窓口として地域の方々へ貢献出来るよう努めている。 ・キャラバンメイトとして市の依頼より、認知症サポーター養成講座の講師を派遣している。 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、入居者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の状況や対応など、ユニット毎に報告している。ホーム内での行事についても話し合っている。 ・地域の方々よりお祭りや行事の日程、新たに完成した公園の情報をいただき、実際に参加して楽しみにしている。 ・今年度は防災についてのご意見が多くあった。2月16日京都府主催防災研修、17日に長岡京市主催防災研修に参加。22日開催予定の第6回運営推進会議にて報告をした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2ヶ月に1度開催される運営推進会議には、入居者の家族代表の方・地域住民代表の方・民生委員・市の高齢介護課・地域包括支援センター等から参加がある。 ・事業所の運営状況、行事等について報告するだけではなく、各ユニットの状況等について報告や協議を行い、サービス向上に活かす努力をしている。 ・家族からの意見・要望は、支援の質を向上させる機会であると考え、運営推進会議で毎回詳細を報告し協議して、助言、意見等を得るようにしている。 ・会議録は、個人情報に注意して関係機関に報告し、職員間でも共有して、サービス向上に活かしている。 	運営推進会議は、グループホームが地域とのつながりを深めていく窓口の一つです。今まで参加したことがない地域住民や家族の方に参加していただけるような働き掛けを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議には高齢介護課・地域包括支援センター・民生委員等、市町村との連携がある。 ・地域のグループホーム連絡会ではグループホーム間での連携と共に行政や地域包括支援センターからの参加もあり、地域との連携を深める機会となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市内や乙訓圏域での講演や研修には積極的に参加し、地域ケアについて共有し、サービスの質の向上を心がけている。 ・運営推進会議には市の高齢介護課・地域包括支援センター職員の出席があり、市町村との情報交換や具体的なアドバイスを得る機会となっている。 ・管理者は、認知症サポーター養成講座や研修等の講師を務め、長岡京市や乙訓圏域の福祉プロジェクト等にも関わり、市町村とは普段から協力関係を築いている。また、防災や虐待についてなど、地域の開催する会議には、管理者や職員が積極的に参加して情報交換を行っている。 	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・玄関の施錠はしていない。各階のフロア毎の移動も自由に出来ている。毎日の朝礼で状態を報告、外に出る心配のある方については事務所の職員も含めた見守り態勢を取っている。お一人お一人の気持ちと行動を素早く確認できるようにしつつ、常に所在確認を声を掛け合いながら見守っている。 ・下肢筋力の低下や歩行が不安定な方には安全のためお待ちいただくこともあるが出来るだけ早く対応して、気持ちや行動を閉じ込めることの無いように心がけている。 ・ふらつきや転倒の危険がある方など、ヒヤッとしたことはとしたことを「ヒヤリはっと」に記入、行動把握することで制限しないような見守りが出来るよう努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化や重度化による機能低下から、車いすが必要な方や転倒の危険性が高い方が増えるなか、家族の理解と協力を得て密なケアカンファレンスを行い、安心と安全を確保していく工夫をしている。 ・会議で身体拘束をしないケアについて振り返りを行っている。日中は全職員で見守る体制をとり、玄関等の施錠はせず、各階の移動も自由にできるようにしている。外出の希望があれば、できる限り行動を制限せず一緒に外出して精神面の安定を図れるようにしている。 ・身体拘束だけでなく言葉による拘束も含めて、ユニット会議において研修を行っている。歩行不安定な方に「座っていて」、「待っていて」と言うような何気ない言葉が拘束にあたることを、職員が認識しているか常に確認をして、職員同士で注意し合っている。 	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・職員間でも意識を高めてケアにあたっている。 ・ユニット会議においても研修を通じ共有してケアについて検討する機会を設けている。 ・長岡京市主催の虐待研修に参加。職員間の意識向上を図っている。職員同士でも言葉遣いなど疑問に思ったことや気付いた際は、互いに声を掛けあえる関係作りに努めている。 ・常に入居者の視点に立って考える姿勢を大切にしている。 ・虐待はないが内服薬服用の影響にて内出血のしやすい方もいる。状態把握に努め、医師との連携とご家族への報告を行っていく。 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・成年後見制度を利用されている方が2名いる。 ・日常生活自立支援制度や成年後見制度については、外部研修や内部研修を通じて学びを深めていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・契約時に説明、納得していただいている。 ・重度化した際の指針についても説明している。		
10	(6)	○運営に関する入居者、家族等意見の反映 入居者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・ご家族、入居者の言及された事の真意を汲むべき姿勢に職員一同努めている。 ・12月にリーダーの異動があり、ご家族が不安を感じられることがあった。ケアが継続されていることについては安心して頂いている。開設当初から継続勤務している職員もおり、ご家族もそのような想いを言える環境が作れている。・職員同士で情報を共有、積極的にコミュニケーションを図ることでご家族の安心に繋げている。 ・日常の面会以外にも運営推進会議にて、ご家族の意見を聴く機会がある。会議には行政より参加もあるので、意見交換を行い運営に反映させることが出来るよう努めている。またご家族向けの広報誌にて入居者やご家族のご意見やご要望について話し合った結果を報告している。	・入居者を思いやる家族の気持ちを大切に捉え、面会時など日頃から家族とのコミュニケーションを心がけ、入居者の日常の様子を伝えている。 ・昨年度は、家族対応の中心を担っていたリーダーの異動があり、コミュニケーション不足を心配された家族があった。そのことをきっかけとして、家族が何を求められているのか、何を伝えていけばよいのかなど職員で話し合いをしたと聞きとった。今後は全職員が家族とのコミュニケーション力を深め、家族からの信頼が得られるよう職員育成の目標を明確に立てている。 ・「重度化したらどうなるか」など入居者や家族の不安に対しては、過去の事例をあげながら医療連携の説明を行うなど、真摯に対応している。 ・毎年、家族交流会を開催し、家族同士の親睦を図ると同時に、職員ともゆっくり話すことでホームを身近に感じていただき、意見や要望を出していただく機会としている。	・家族の訪問時に、体調の変化等に限らず、日頃の些細なことについて伝えていく姿勢は、家族にとっては嬉しい安心につながるものです。忙しい様子の職員に対して質問を遠慮される家族もあります。職員から話しかけ最近の様子を伝えていく意識を全職員が持つことが大切だと感じます。「全職員が入居者・家族とのコミュニケーション力を高める」という目標に向かうさらなる取り組みを期待します。 ・家族アンケートでは「職員の真心がこもったケアで認知症の症状が和らいでいる」、「親切で何でも相談できる」などの感謝の声が多く寄せられています。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ユニット会議等が出た職員の意見や提案を、リーダー会議を通じて管理者に伝える事が出来る。 ・個人面談の機会もあつたり管理者がそばにいますので、いつでも意見や提案が出来る環境にある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月開催されるユニット会議には、全職員が参加して研修と協議を行っている。職員の意見や提案事項は、リーダー会議や職場運営会議、管理者会議へと報告される体系的な意思決定の仕組みが整備されている。 ・管理者は、職員と共に現場に入り、日常的に声を掛けて、職員の意見や提案を聞き運営に反映している。どのユニットもチームワークの良さが感じられ、ケアについて職員から「こうしたらどうだろう」と提案しやすい職場づくりが心にかけている。職員から「働きやすい環境だから続けられる」などの声があり、実際に離職率が低く勤続年数の長い職員が多い。 ・日頃から職員の意見が代表者に届くボトムアップの体制を築いている。また、半期ごとに個人目標の自己チェックを基に管理者との個人面談の機会を設けている。 	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・福利厚生として、職員にポイントが支給され、買い物、旅行などに使用している。 ・資格習得へのサポートがあり、意欲向上に繋がっている。 ・職場レク等、食事会等を通じて職員間の親睦を深める機会が設けられている。 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<ul style="list-style-type: none"> ・研修には個人で参加する場合もあるが施設として参加する場合もある。参加出来る様に勤務体制を調整している。 ・ユニット会議では、毎月の自己研修・研修の報告の分かち合い等で日常へのケアに活かすように努める。 ・リーダーとのコミュニケーションの時間を設ける等、職員をOJTの中で育成している。 ・看護職員による医療的ケアやベッド上での介助など重度化に向けた研修も行い、スキルアップに繋げている。また、看取り期にはカンファをして統一ケアに繋げている。 ・夏祭りには実行委員会を作っている。行事を安全に行うために、利用者お一人お一人の状態の把握や楽しみを引き出すことが必要となる。職員間の情報の共有が連携に繋がりが、毎日のケアにも活かされている。 ・京都府認知症実践者研修について、就業年数や経験に応じて参加している。 		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・乙訓地区グループホーム連絡会に積極的に参加し、意見交換・情報の共有に努めている。 ・他事業所に見学に行く機会もあり、スタッフ間の交流や意見交換等も行なっている。近隣のグループホームの夏祭りに参加した。また、こちらにも来て頂き楽しい交流がもてた。 ・当社の全社研修に施設長研修、リーダー研修、スタッフ研修があり、階層ごとの交流がある。 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・場所と周りの環境に慣れてもらうためにまずは職員との良好な関係が持てる様、個人を尊重しプライドを傷つけない言葉がけと見守りに注意している。 ・これまでの生活習慣等をご本人から聞いたり、行動より察したりして早い時期に慣れて頂けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・ご家族の状況も把握し、ご本人とご家族の思いと要望を受け止めて、援助計画に反映してケアを実践している。 ・環境の変化の様子もお伝えして、安心と新たな要望が言い易い関係作りと信頼関係を築くことに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・家族として心配している事、して欲しい事は嚴重に受け止めている。 ・ご本人の好む事、興味などを家族に情報としていただき、これまでに継続してきたことが変わらずに行えるよう支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・下肢筋力の低下があり立位を保つことは難しくなっているが、座って出来ることは積極的にして頂いている。 ・洗濯物をたたむことを自分の役割とおっしゃられる方や、テーブルでケーキのデコレーションをしたりすることを楽しみにされておられる方もある。利用者の笑顔は職員の喜びであり励みとなって、共に暮らす喜びとなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	<ul style="list-style-type: none"> ・体調についてはもとより、心身の変化についても伝えて理解を頂いている。家族の心配などにも丁寧に説明することで安心に繋げている。家族の面会により表情が明るくなったり安心されることを伝えている。家族の理解と信頼関係が築かれるように、面会の機会が増えるように努めている。 ・嚙下の心配な方にはご家族に状況を伝えることで、ご家族が見守りに来て下さったり共に考える関係が出来ている。 ・編み物が得意な方にはご家族が毛糸を持ってきて下さってベストができ上がり、ご本人の喜びや励みになっている。 		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・入居年数が長くなりまたご年齢を重ねることで、馴染みの人や場所が少なくなる現状がある。ご本人などの面会時には、和やかに過ごしていただくよう環境を整えるよう配慮している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所の行事には利用者の家族、友人知人などに参加を呼びかけている。 ・日々の暮らしの中で話されたことを積み上げて、意向を汲み取り、馴染みの人や場所との関係性が継続できるよう個別に支援している。 ・ホームには家族が来訪することが多く、友人知人が訪れることもある。来訪時には気持ちよく過ごしていただく配慮をして、本人の持っておられる力を引き出せるようお互いに協力しあえる関係を築いている。 	
21		○入居者同士の関係の支援 入居者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに入居者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・職員は他者同士の関係作りの橋渡しをしている。 ・他者の好みや得意な事など他者同士を紹介しあったり、共通の話題を見つけて会話を繋げている。 ・トランプやかるた、風船バレーなどレクリエーションを通じて笑顔の輪を広げている。 ・書道は互いの力を認め合い、励ましにもなっている。 ・食事の際は職員も共に食べ会話の橋渡しを行い、皆で和やかな雰囲気です食事が出来ている。 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・退所された方の家族と会った時には思い出話をしたりして、懐かしく時間を過ごす時もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	<ul style="list-style-type: none"> ・思いや希望、意向の把握に努めている。ご家族より意見をいただきケアプランに反映させている。 ・自分の意向を伝えにくくなった方には日中の過ごし方や他者との関わり、レクリエーションを通じて出来る事や好みの発見等により、楽しみを広げられるよう支援している。一人一人にあったレクリエーションを行い、無理なく楽しめるようにしている。 ・またアセスメントを行い出来る事や出来るための支援方法を考え役割を持ってもらう等、自己を肯定できたり自信に繋がれるように努めている。 ・「天気がいいなあ」と外を見られている時にはドライブへ出かけるなど、その時その時のご希望に添えるよう、フロアを超えた対応をしている。 ・「編み物がしたい」「退屈はいや」「おやつが楽しみ」「歩けんようになったらあかん」「しゃべる相手が欲しい」など、お一人お一人のご希望を聞いて一日の生活を共に組立てている。 ・ご家族の協力で毛糸を用意してもらったり、手作りおやつを共に作ったり、天気の良い日は散歩に出て季節を感じたり気分転換をしている。 ・体調の見守りが必要な方には身体を休める時間を設けながら、食事の工夫をしながら体調の安定を図り、安心して過ごしてもらっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・入居前には、本人・家族などから心身の状況や生活歴、趣味や今後の生活に対する希望など、詳細まで聞き取りアセスメントを行っている。 ・入居後は、日々の言葉や行動、表情や仕草から気持ちを察することができるように、細かく見守りをするように心がけている。また、各職員の気づきを申し送りやユニット会議にて共有して個別の寄り添い方を検討するようにしている。 ・管理者は、日々の暮らしのなかで、一人ひとりが発せられる「つぶやき」に耳を傾け、職員にもその姿勢を伝えている。特に「さみしさ」、「悲しさ」など切なさを感じる時には、その「つぶやき」を心に刻みながら静かに耳を傾け傍に寄り添うようにしている。 ・暮らしの希望や意向を伝えにくくなっている方には、一人ひとりの生活リズムを大切に心置きよい環境づくりを心がけている。 ・入居者一人ひとりの趣味や得意なことが、暮らしのなかでできて生活に活気が出るように、おやつ作り、音楽鑑賞、編み物、家庭菜園など、具体的に「生活援助計画」にあげて実行している。また、要望を丁寧に聞き取り、夕食や外出などの企画を立てている。 	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・センター方式のシートを利用して、ご家族に生活歴、習慣、環境、好み等の情報提供のお願いをしている。面会時にもお話を伺い把握に努める。またケアマネジャーから情報を得ることもでき、参考としている。 ・日々の関わりの中でもその人となりを引き出せる様会話を大切に、またその行動からも情報を読み取り、ケースに記録していく。 ・各職員が知り得た情報はユニット会議で共有していき、ご本人の全体像に繋げていく。 		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・朝や夕方の申し送りには気になる入居者の体調・心身状態を伝え、施設全体で見守っている。 ・歩行状態、排便状態等を観察して下肢筋力や体調の把握に努めている。 ・夜間の入眠状態、体調や便秘等が気持ちに影響していないか等も考えながら、1日の過ごし方を考えていく。体調や体力をみて、休息を取りながら食事を楽しんだり会話を楽しむ時間を持っている。 ・1日をどう過ごしたいかをご本人に聞いて、共に組み立てる事も出来る。天気の良い日には散歩や外気浴にて気分転換をしている。 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<ul style="list-style-type: none"> ・ご本人の言葉や行動からしたいことや暮らし方の希望をくみ取り、それが実現できるようにできる事、できないこと、どのようにサポートしたら可能になるかなどをアセスメントしていく。月1回のユニット会議でカンファレンスを行い、職員の意見やアイデアを確認し、それらを援助計画に織り込んでいる。 ・ご家族にも現状を伝え、意向を聞いて援助計画に織り込み、ご家族と連携して支えている。 ・体調や気持ちの変化などすぐに対応すべきことが生じた場合には、ミニカンファをして迅速にケアにあたっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・入居者や家族の意向を基に作成される「生活援助計画」は、本人や家族の視点に立ち分かりやすい内容になっている。 ・アセスメントでは、一人ひとりの「生きがい活動」につながることを大切にして、趣味や得意なことが暮らしのなかでできて生活に活気が出るように、家族からも協力を得て、「生活援助計画」には具体的な活動内容や支援内容を記載している。 ・毎月のユニット会議では、全職員が参加してカンファレンスを行い、入居者一人ひとりに対する職員の気づきを共有して援助計画を見直している。 ・「生活援助計画」の更新の基本は半年ごとだが、体調の変化をはじめ、変更すべき状況があれば、すぐにミニカンファレンスを開き検討する。 	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<ul style="list-style-type: none"> ・お一人お一人の日々の記録はD-4シートに記録している。特に変化のあったことや注意すべきことは業務日誌に記載し、意識して観察している。 ・記録と同時に申し送りは職員の連携と実践に繋がっている。 ・体調に変化が生じた時は観察に必要な項目を別表にして記入している。普段から排尿・排便表に記入して体調の把握に努めている。 ・特別な変化がある時は、その時点で現状に即した介護計画の作成に努めている。家族の意向、看護師や主治医の視点をもらいながら、本人本位の計画に努めている。 		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・当所では、居宅介護支援事業所と訪問介護サービス事業所があり、ホームヘルパー、ケアマネジャーも在籍し、在宅での智慧、他施設の智慧を教えてもらったりすることができる。利用者の状況に伴い、歩行器、徘徊防止センサー等福祉器具の情報提供、導入使用に繋げている。 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園児の訪問や大正琴の演奏など地域の方々に協力を頂き充実した生活の支援につなげている。また、年2回の避難訓練における消防との連携は安心安全への協働となっている。 ・月に一回、書道のボランティアの先生が来られる。併せて週に一度の練習日も設け、上達が喜びとなっている。 ・畑で野菜作りをしてくれる人もあり季節の野菜が食卓にのぼっている。また、サツマイモができる秋は芋ほりを楽しむことができている。 		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的にはご本人・ご家族の希望のかかりつけ医の受診体制が整備され、安心して訪問診療を受けられている。 ・たけフロアでは6名のかかりつけ医が来られている。またホーム全体では13名のかかりつけ医に来て頂いており、24時間対応可能となっている。 ・診療の記録は在宅療養手帳に記入される。これには看護師や職員も気付きを書いている。一人ひとり医師会が登録したご本人の手帳があり、かかりつけ医、看護師、職員が連携して体調の見守りをしている。 ・必要に応じてかかりつけ医の他に歯科医、地域の専門医の訪問診療と連携がある。 ・看取りの際には密な連携を取ることが出来る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・医療については、本人・家族の意向に添うことが重要と考え、希望があれば入居前からの主治医など、馴染みの医師をかかりつけ医とする体制が整備されている。 ・現在、かかりつけ医など13名の医師が、2週間に1度の訪問診察などでホームに来られ、緊急時など24時間対応可能な体制が整備されている。看取りの支援においても、医師・訪問看護師、及び、ホームの非常勤看護師と連携して進めている。 ・乙訓地域独自の在宅療養手帳を活用して、入居者の関係者が情報共有を図り、その人に適した医療が受けられるよう支援されている。 ・家族と通院される際にも、可能な限り職員が同行して、家族・かかりつけ医との連携を図っている。 	本人・家族の希望に合わせた医療との連携は、入居者や家族にとって大きな安心につながっています。多くの医師の協力があることで、職員の医療面の知識も高まると考えられます。医療的ケアやチームケアについて、多職種で協議されている地域の特徴を活かして、医療との連携についてさらに発信される役割を期待します。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・非常勤看護師による医療管理をしている。 ・必要時に医師への連絡もしてもらったり、相談、アドバイスをもらいながら体調の見守りをしている。かかりつけ医の指示により訪問看護師が入ることもある。 ・看取り時においては密な連携を取ることができ、ご本人の安楽とご家族の安心に繋がっている。 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・入院された利用者には、退院後の生活がよりスムーズになっていただけるよう、安心に繋げるよう面会に行っている。 ・ご家族にも連絡を取り状態の把握に努める。 ・基本的にはグループホーム職員は第三者扱いとなり個人情報に関係で情報をいただけないため、ご家族と連携し、ソーシャルワーカー・看護師等と密に連絡を取り、現状を確認し退院後のケアを含めて情報の交換をする。 		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・ご入居の時にご家族の意向の把握に努めているが体重の急な減少や体力の低下などが見られた時には、ご家族と共にかかりつけ医から状態説明を聞き、本人や家族の意向に添う。 ・看取りの指針を説明し、文書でターミナル時の対応を確認している。 ・ご家族の協力や医療職との連携により、人生の結びの時間を最後までその方の尊厳を大切にできるケアに努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・入居者の体調に変化があり重度化した際には、ユニット会議で対応を検討し、支援の方法を職員間で確認している。 ・「重度化及び看取り介護における対応指針」に基づき、入居時には家族に事業所の重度化や終末期の対応方針を説明して了解を得ている。その時期になった時は同意書ももらっている。本人、家族の意向と、主治医の指示の下、職員も「終末期における看取り連携マニュアル」によってその人に応じた終末を終わられるよう努めている。 ・看取り期であっても、どんなに重度化しても、「現在、ここで、一緒に生きていること」を大切に捉え、1日1日をその方らしく過ごしていただけるよう努力している。 ・職員が利用者の重度化に対応するために、ユニット会議のなかの研修時間(30分)に、「看取り介護について」、「リスク管理について」等の研修を行っている。 	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急マニュアルを常時スタッフルームに掲げてあり、職員同士で確認している。また、他ユニットの方で緊急事態発生時の様子も朝礼等で共有してもらい応急手当、初期対応への自覚が日常的にも深められるようにしている。 ・救命講習も受けるよう努めている。 ・救急時には緊急持ち出し書類として備えられている。(薬や既往歴、現病歴等利用者の情報が纏められている) ・迅速に連絡が出来るように連絡網を確認している。 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	<ul style="list-style-type: none"> ・災害マニュアルの確認と共に消防署の協力を得て避難訓練を毎年2回実施している。新人職員には消火器の扱い方も含めて、実地指導をしている。 ・入居者お一人おひとりの状況に合わせて、職員が避難の順番等を確認している。施設管理者が、地域に協力をはたらきかけている。 ・避難の妨げや火災の防止のために必要機器を点検している。 ・2月16日に京都府主催の研修に、翌17日に長岡京市主催の防災研修に参加した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・京都府・長岡京市主催の防止研修に参加して、職員会議やユニット会議を通して、職員間で情報共有している。 ・ハザードマップでは水害危険区になっている。周辺には少ない3階建ての施設であるため、予測不可能な豪雨などの際、地域の人の避難所になることも考えられ、備蓄の検討をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・非常災害時に地域の福祉施設が果たす役割が全国的に大きくなっています。「地域住民との防災訓練」や、地域住民に対して「施設ができること」を検討する機会がもてると、さらに地域との連携が深まると思います。また、「災害時の近隣と連携した活動」について、運営推進会議メンバーの協力を得て、具体的取り組みができることを期待します。 ・備蓄品の充実とリスト化、食料品の賞味期限の管理のために、日常的に使用して買い足していく方法(ローリングストック)について検討されてはいかがでしょうか。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・お一人お一人の誇りやプライバシーを大切にして、わかりやすい言葉で伝えたり、対応を心がけている。 ・排泄時や入浴時等の羞恥心等にも配慮し、気持ちよく過ごしていただけるよう心がける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・入居者の尊厳の尊重とプライバシー保護については、会議や研修を通して繰り返し確認して、職員は利用者の尊厳に配慮した対応と、やわらかく丁寧な言葉かけを心がけている。 ・同性介助を基本にしている。男子スタッフの増加により困難な時もあるが、可能な限り希望者に添えるよう配慮している。 ・個室内で排泄介助するの時でも、不意な入室者のないようドアに札をかけるなど、細かな心遣いもされている。 ・排泄、入浴については、一人ひとりのペースに合わせた支援を心がけると同時に、羞恥心への配慮を大切にしている。 	
37		○入居者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	<ul style="list-style-type: none"> ・声かけ時はゆっくりと低めの声で話しかけたり、介助時も行動を伝える工夫を実践することによって、入居者の理解と協力の上行よう努めている。 ・お一人お一人の気持ちや想いを適時、その方の表現方法から感じ取れるよう心掛けている。 ・何かを選んだり伝えようとする言葉を探している時を静かに待ち、その思いや本人の希望を表現できるよう努める。 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・体調や天候なども考慮しながら散歩やレクリエーションへの参加、入浴など希望に沿った事を優先している。 ・食事に時間がかかる方もあり、その方のペースで食べてもらえるよう見守っている。 ・身体を休める時間が必要な方もおり、気持ちと身体のバランスをとりながら一人一人の生活ペースを大切にしている。 ・1日のどこかの時間で入居者同士が集える時間を持てるように工夫している。 		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・行事や季節にあった服装ができるよう気を付けている。 ・誕生日に似合いそうな洋服を選んでプレゼントすることもある。 ・理美容師の訪問があり、その方に似合ったカットをしてもらっている。 ・起床時や入浴時などには何を着るかを一緒に選んでいる。 ・衣服の汚れや着衣の乱れには速やかに対応できるように、常に気配りを行うように努めている。 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・各階に台所があり、出汁の香り漂うリビングで食事を楽しみにされている。 ・介助が必要な方も増えているが、傍に寄り添って、和やかな雰囲気ですら食事をしてもらっている。 ・おやつ作りではホットプレートにてホットケーキを焼いたり、あんみつなどの盛り付けをしたり一緒に作って楽しみを広げている。 ・座ってできる事、テーブル拭きや盛り付けなど、味見をお願いしたりして、自分たちも関わったという気持ちがより食事を楽しみにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・入居者・職員が共に食卓を囲むことを大切に考え、食事には穏やかな会話が流れる温かい時間となっている。 ・栄養バランスを考え利用者の希望を取り入れながら、新鮮な食材を用いて調理された食事は、皆さんの大きな楽しみとなっている。また、長年勤務してきた料理上手の職員を中心に、丁寧に汁をとるところから始める手作り料理が提供されて、入居者と職員の大きな楽しみになっている。 ・日頃から旬の食材を意識して使っている。また、誕生会や季節の行事の際には、入居者の好みや希望を取り入れて、好きなものや季節の味を楽しめるようにしている。 ・嚥下や咀嚼の難しくなった人へは様々な工夫をして、少しでも飲食できるように配慮されている。入居者の口腔、嚥下状態に合わせて、きざみ・とろみ・ミキサー食など見た目にも配慮して調理、配膳をして提供している。固形物が喉を通らなくなり経口栄養剤と水分を採っていた方が、クリスマスケーキやおせち料理をきっかけに少しずつ食べられるようになった事例もある。 ・高齢化や重度化により、以前のように立って料理ができる方が少なくなっているが、座ってできる料理を工夫して楽しむ機会をつくっている。また、下ごしらえや盛り付け、配膳や後片付けなど、できることを楽しく続けてもらえるように心がけている。 	料理の手伝いができる利用者が少なくなつて、以前のようにはできなくなつたことですが、元主婦の多くは料理をすることで自分の存在感を感じるものです。今後も現在取り組まれているように、手伝いたい人が簡単な役割をもって共に食事準備や片付けができる工夫を今後も期待します。
41		○食事を楽しむことのできる支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人一人の状態や力、習慣に応じた支援をしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・食事量のチェックにより、食欲や体調の変化にも注意している。 ・ミキサー食やとろみをつけたり、お粥を提供している方もあるが、一律にミキサーをかけるのではなく、お一人お一人の状態にあわせて固さの調節を行い、野菜などでも柔らかい煮物はそのまま提供したり、見た目にも配慮して満足感に繋げている。 ・水分や塩分を控える必要のある方にはしょうゆ類を控えるなど工夫している。 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・食後、洗面所にて義歯洗浄、うがいを促して口腔の清潔を保っている。 ・うがいに緑茶を利用して除菌やさっぱり感に繋げている。 ・随時、歯科受診も行っている。 		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かしてトイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<ul style="list-style-type: none"> ・尿意・便意の訴えがあればすぐにトイレに案内しスムーズな排泄に繋げている。訴えない方はお一人お一人のしぐさの観察や排泄パターンに応じたトイレの声掛けを行い、トイレでの排泄が行えるように支援している。 ・下肢筋力が低下している方には二人介助でできるだけ便座に座ってもらい、気持ちの良い自立に向けた排尿・排便を支援している。 ・夜間に尿量の多い方には声掛けをしてトイレに誘導し、気持ちの良い入眠に繋げている。 	<p>排泄チェック表はスタッフルームの中など目立たないところに設置されてプライバシーに配慮しながら、個別の状況をつかんで支援している。新しくはない施設だが、施設内に臭気も感じられず、丁寧な支援とこまめな清掃をされていることが伺える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・排泄パターンを把握し、様子を見守りながら時間より少し前にトイレ誘導する、また、立ち上がられたタイミングで静かに声を掛けることで、排泄の失敗が少なくなり改善した事例がある。 ・下肢筋力の低下している方でも、職員の二人介助により自立に向けた排泄を諦めず支援している。 	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化と共に自立排便の困難な方も増えて、かかりつけ医より緩下剤使用の方も多くなっている。その方の周期をつかんで効果的に使用している。 ・日頃より腸内細菌を整えるためにヨーグルトなどの乳製品を多く取り入れている。 ・入浴時に体を温めたり腹部マッサージをして腸の動きを助けたり、適度に体を動かす等により便秘を予防している。 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・時間や順番などの決まりはなく、毎日が入浴可能日になっている。入りたい時に入れるように気持ちを大切にしている。 ・排泄状況、体調への配慮をしながら、身体の清潔保持、心身のリフレッシュを大切にしている。 ・入浴時は羞恥心への配慮をしながら入居者とのコミュニケーションを楽しむ場ともなっている。 ・シャワー浴をする時は足浴をしながら全身が温まるよう工夫している。 ・スキンケアにも気を付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1階フロアは中型浴槽、2階は車椅子の方も入れる浴槽、3階は個人浴槽で、身体状況に合わせた安全な入浴に配慮している。 ・入浴は週3回を基本としているが、回数や時間など個人の希望に添って楽しめるように努めている。また、一人ひとりの体調に合わせて、シャワー浴や足浴などを行っている。 ・3階の共用デイサービス利用者のなかで、以前は入浴を拒否される方がおられたが、その理由や対応について職員間で検討し、入浴されるようになった事例がある。 	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・乾燥による痒みのある人にはローションを塗って安眠に繋げている。 ・室温・湿度にも注意をしている。 ・腰痛の方や下肢の浮腫を予防するために日中に休息を取ってもらっている方もある。 ・夜間にトイレに行かれる方には誘導して気持ちのよい入眠に繋げている。 ・夜、ゆっくりテレビを見て気持ちを落ち着けてから眠る方もある。 ・暗い方が落ち着いて寝られる人には安全の為足元灯を点けている。 		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・お一人お一人の持病と服薬の目的・副作用等を理解してスタッフが管理を行っている。 ・ご自身の服用している薬について聞かれた時はきちんと説明し、理解して服用して頂いている。 ・定期薬以外に服用する風邪薬等は、改善等症状をみながらかかりつけ医の指示を確認していく。 ・投薬の間違いがないように処方箋管理表及び服薬管理表の記入を徹底している。 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・編み物が得意な方はご家族が毛糸を用意して下さったりして、ご自身のベストを編み上げることができた。 ・洗濯物たたみは多くの方がなさって下さっている。 ・夏祭りや元日などにはビールやお酒を飲んで楽しまれた。 ・かるたは取らないが読み手として参加する方もある。 ・書道の会は一人一人が作品に取り組むと共に、互いを認めたり、励ましあいしてより良い作品を作っている。 ・ケーキのデコレーションやあんみつを盛り付け、手作りのおやつを共に楽しんでいる。 ・気候に応じて、近回りの散歩、ドライブ、ガーデンティータイムやランチの時間など、外気に触れる喜びと共に気分転換を図っている。外食にでることもある。 		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・天候の良い日は朝の散歩をそれぞれの身体状況に合わせて行っている。 ・花の水やりなど、戸外での活動も大切にしている。庭のテーブルでゆっくりとくつろぎながらお茶の時間も持つように努めている。 ・家族と外食に行かれる方もある。 ・近くのお地藏さんまでの散歩を日常的に行っている。 ・近隣の長岡天満宮へお弁当を持って出かけ、季節を楽しんでいる。 ・秋にはコスモス畑へ毎日のように散歩に出ている。 ・華道展を見にいたり、外食にも出かけている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常の会話の中から、外出の希望を聞き取り、実現に向けて支援するように努め、季節の移り変わりを楽しむ外出や外食、買い物に出かけている。 ・事業所の周囲は田畑などが残るのどかな住宅街で、一人ひとりの気持ちや健康状態に合わせ、日常的な散歩や外気浴を楽しんでいる。 ・地域に歴史ある寺社仏閣や、季節ごとの自然が楽しめる名所や公園があり、入居者の希望により、梅見や花見など外出の機会をつくっている。また職員の提案により水族館など新しい外出先も開拓して、入居者や家族の楽しみづくりに努めている。 	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・現在はお金の管理が個人的には出来なくなり、買い物の代金などは家族請求となっているが、希望があれば買い物に行ける環境を作っている。 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・去年までは年賀状を書く手伝いをしていたが、今年は書かれず寂しい思いもあった。頂かれた年賀状はご家族にもお伝えし、先方の健康を喜ばれたりした。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が利用者にとって、不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・玄関は外来者を迎える場であり、花を飾ったり気持ちのよい空間に心がけている。 ・台所からは料理をする音が聞こえ、匂いから「今日の献立は何か」と想像する楽しみがある。 ・居間・兼食堂はスペース的には狭さを感じることがあるが、テーブルの配置を工夫したり等、共有空間に暖かさや居心地のよさを感じさせている。 ・南側のソファに座って暖かい日差しを浴びながら好きなテレビを見ながらくつろぐこともできる。 ・家族の面会の際はリビング、居室だけでなく、相談室も利用して頂き会話を楽しんで頂いている。 ・個浴においてゆったりと入浴を楽しむことができ、職員は介助を通して入居者お一人おひとり一対一で親しくコミュニケーションをとることのできる場となっている。 ・トイレ使用後は臭いに気を付け換気や除染の対応等、清潔に保つよう職員全員が都度、清掃を心がけている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・会社の社員寮向けだった建物を改築してホームが開設されて15年目となる。共用空間は常に整理整頓されていて清潔感がある。特に玄関は日が差し込み明るく、季節の花が生けられ、来訪者への気遣いが感じられる。 ・どのユニットも、ソファなど家具の配置を工夫して、皆で過ごせる場所と少人数や一人で読書をしたりくつろげる居場所がつけられている。 ・植物や生け花が適所に飾られ、室内でも季節感が感じられる。また、習字や絵画、写真など入居者や職員の作品が整然と展示され、温かみのある生活空間になっている。 ・共用スペースで入居者の趣味を楽しんでもらえるように工夫されている。例えば音楽好きの方の傍にはCDプレーヤーが置かれ、いつでも好みの音楽を聴くことができる環境がある。 	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った入居者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・テーブル席は入居者同士の関係を活かして案内したり、レクリエーションを行う時にはしたいことによって自由に席の移動を行っている。皆で楽しむ空間と共にソファで一人くつろいだり、テレビを見たり、新聞や本を読んだり自分の楽しみが持てる時間がある。お一人お一人のこうした居場所を大切にしていきたいために職員は常に見守りと関わりへの配慮をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・仏壇をおいておられる方がある。畳の上に布団を敷いて寝ておられる方もあり、これまでの生活の継続を大切にしている。 ・居室にご家族の写真をたくさん貼って、お孫さんの成長やご家族との繋がりを大切にされている。 ・ご自分の作品を飾っておられる方もあり、これまでの生活の豊かさを感じてさせて頂いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・居室には、馴染みの家具が使いやすいように配置され、趣味の植物や生け花、家族の写真、手作りの品などが飾られ、どの部屋もその方らしさを感じられる。また、ゆっくりくつろげるように、職員が入所居者と共に清掃されていて清潔感がある。 ・和室、洋室の居室があり、一人ひとりの趣味を生かした生活空間作りに家族や職員も一緒に努め、自宅に暮らしているような雰囲気を感じられる。 	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<ul style="list-style-type: none"> ・居室の出入り口や廊下には手すりが設置されている。立ち上がりやふらつきなどを予防し、安全に過ごしてもらっている。 ・居室入り口には段差はあるがスロープ状になっている所の滑り止めにて対応している。 ・トイレや浴室の掲示をしてわかり易くして安心感に繋げている。 ・感染予防として手すり等の消毒に努めている。 		